

リスクコミュニケーションを 円滑に進めるために

平成22年2月26日

アジア航測株式会社

土壌・水環境事業部 手塚 裕樹

平成21年度土壌汚染対策セミナー

～リスクコミュニケーションを円滑に進めるために～

1. 土壌汚染とリスクコミュニケーション
2. 土壌汚染対策と健康リスク
3. 土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの進め方
4. 住民説明会の開催について
5. 参考資料

土壌汚染とリスクコミュニケーション

■ 土壌汚染の特徴を考慮しながら適切な対応を行う必要があります。

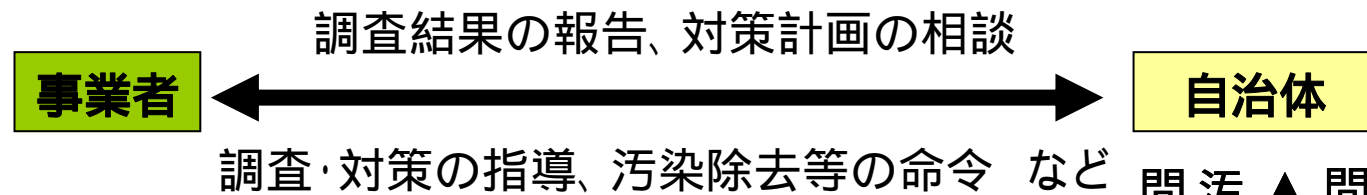
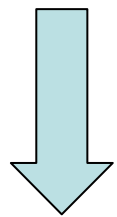
- 汚染の状況が視覚的に把握しにくいいため、周辺住民の方々からは汚染の存在がわかりにくい。情報が公表されなければ、汚染の状況や健康影響の程度が分かりません。
- 大気汚染のように汚染が直ちに拡散するようなものではなく、汚染による健康影響の大きさもケースバイケースです。また、土壌汚染による影響が過剰に大きく捉えられることがよくあります。
- 汚染の対象が事業者の工場等の敷地という私有財産であるため、資産価値への影響等の懸念から、汚染に関する情報が積極的に公表されない場合がしばしばあります。そのため情報が隠蔽されているのではないか等のマイナスイメージを持たれることがあります。

土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの基本的な考えかた

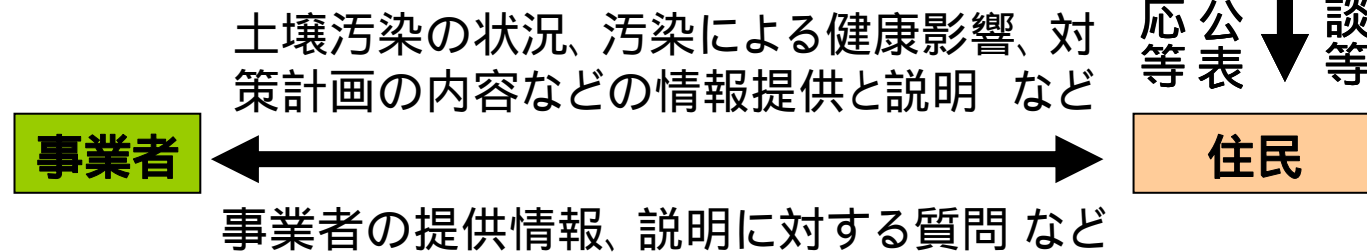
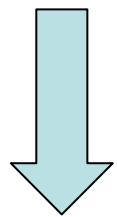
- 土壌汚染による健康リスクの情報を伝えることが重要
 - 土壌汚染が判明したら、周辺住民の方々へ知らせます。汚染を知らせることで、飲用井戸での汚染の確認と飲用中止、散歩コース等の変更などにより汚染土壌摂取の機会を減らすといった行動を取ることができるからです。
 - さらに、土壌汚染が生じたという事実のみならず、それがどの程度健康影響を生じる可能性があるか、どのように対策を進めていくかについても情報提供し、周辺住民の方々の不安を取り除きます。
- 情報の伝え方が重要
 - 周辺住民の方々には土壌汚染について詳しい方ばかりではありません。情報公開の際に、事業者が一方的に調査結果や対策を説明するだけでは十分とは言えません。
 - 専門用語の使用を避け、図を使って分かりやすく説明するなどの工夫が必要です。

土壌汚染対策の一般的な流れと リスクコミュニケーション

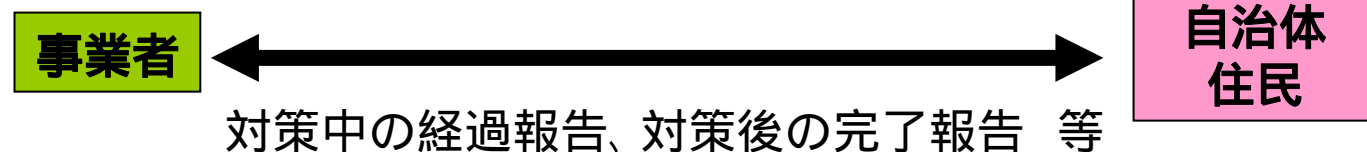
ステップ1 土壌調査 汚染あり



ステップ2 土壌汚染情報の公表



ステップ3 土壌汚染対策の実施



平成21年度土壌汚染対策セミナー

～リスクコミュニケーションを円滑に進めるために～

1. 土壌汚染とリスクコミュニケーション
2. 土壌汚染対策と健康リスク
3. 土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの進め方
4. 住民説明会の開催について
5. 参考資料

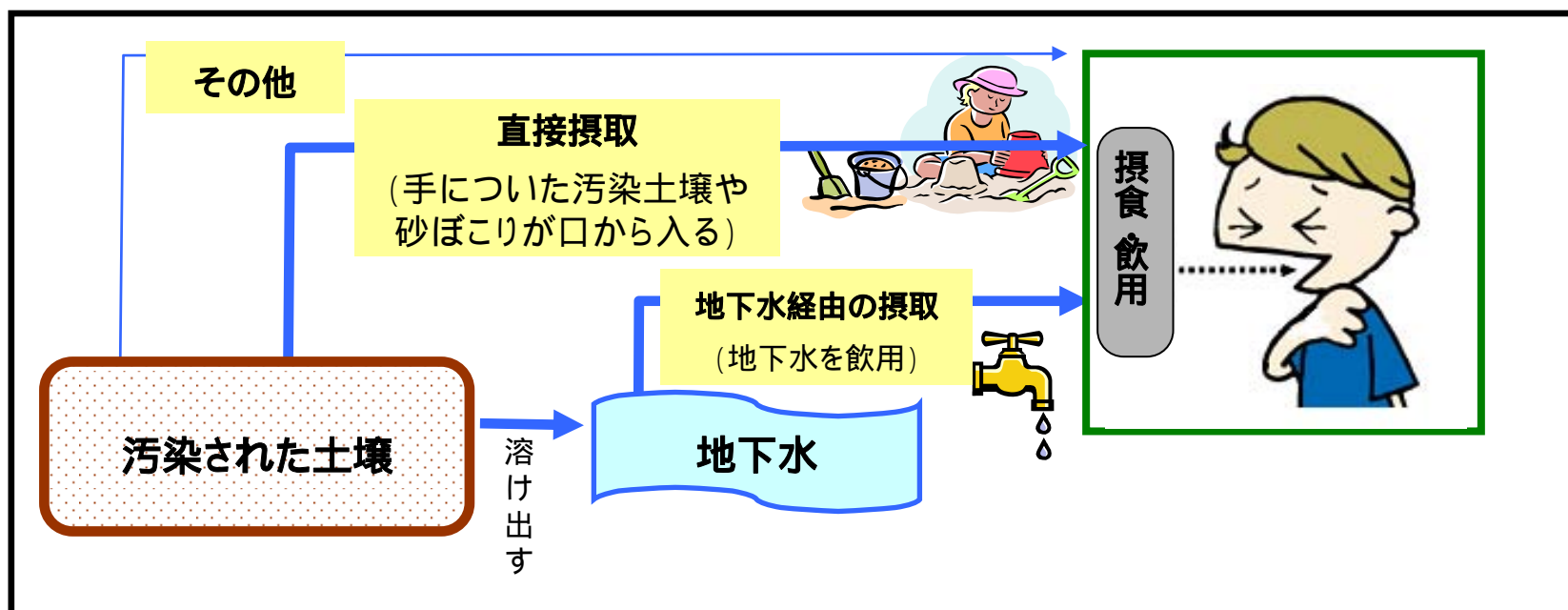
土壌汚染による健康リスク



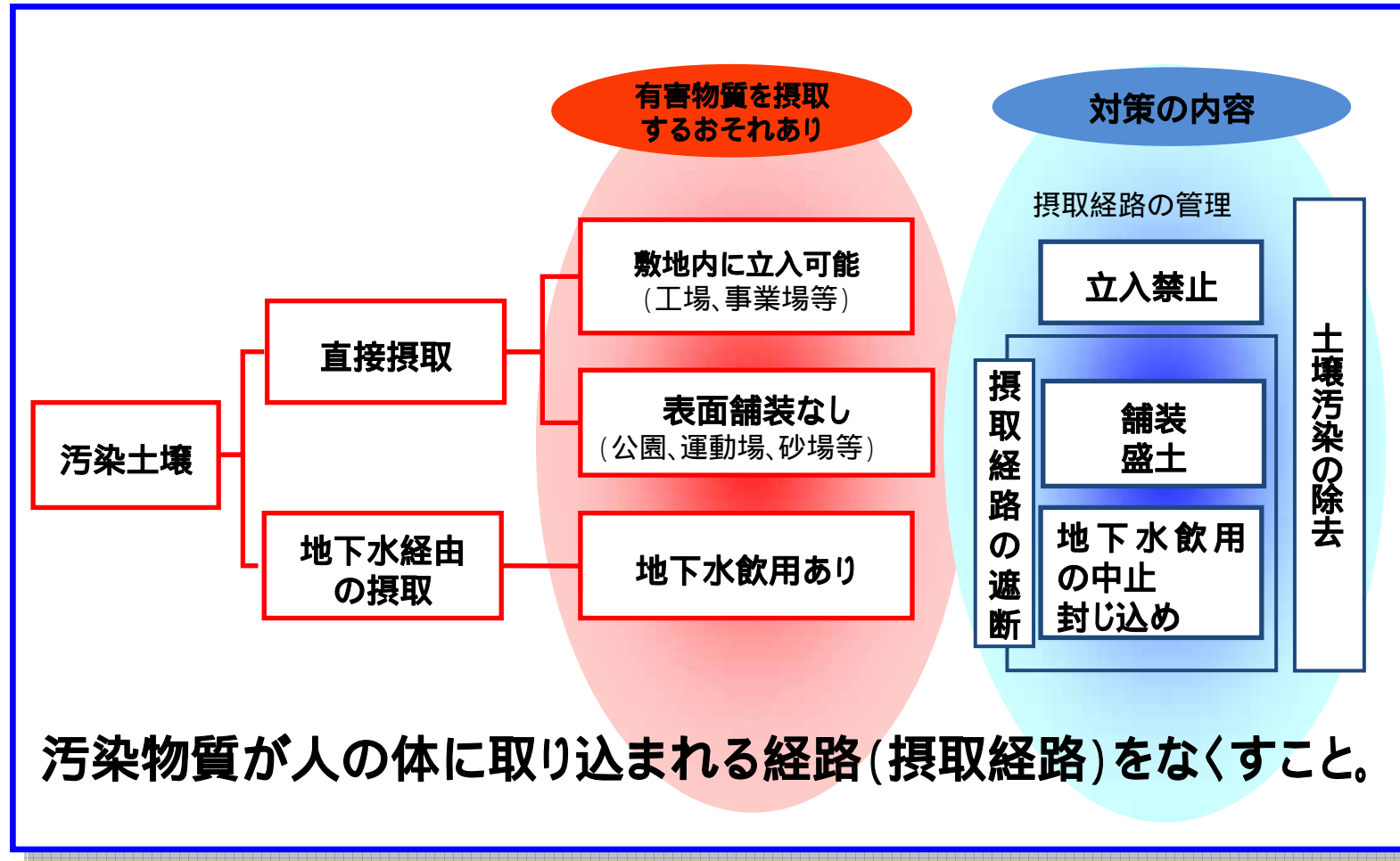
- 汚染物質の有害性が高ければ高いほど、また、汚染物質の体への取り込み量が多くなればなるほど高くなります。
- 逆に、有害性の高い物質が存在しても、からだに取り込まれるのを防ぐことでリスクを小さくできます。

土壌汚染により健康影響を受ける経路 (汚染物質の摂取経路)

- 主な摂取経路は、手についた汚染土壌や砂埃が口から入るなどの直接摂取と、汚染された地下水を飲用する地下水経由の摂取があります。
- 摂取経路を途中で遮断することができれば、汚染が存在しても、健康影響を防止することができます。



土壌汚染対策の基本



平成21年度土壌汚染対策セミナー

～リスクコミュニケーションを円滑に進めるために～

1. 土壌汚染とリスクコミュニケーション
2. 土壌汚染対策と健康リスク
3. 土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの進め方
4. 住民説明会の開催について
5. 参考資料

土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの事前準備について

対応方針の検討

- 社内の**基本的な方針を明確にし**、社内関係者間での情報共有と対応方針の統一を図ります。
- 責任者自らが、**周辺住民の方々の立場に立って**考え、健康や利益を損なわないよう**主体的に臨みます**。
- 周辺住民の方々やメディア等からの問い合わせなど、対外的な対応は**専用窓口を設置**して、できるだけ同じ担当者が行う。

体制づくり

- リスクコミュニケーションを実施するための**責任者、各担当者を決め、チーム作り**を行う。
- 社外の**専門家や、豊富な経験を有している土壌調査会社や汚染対策会社**を活用する事も検討する。

土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの実施にあたって(1)

関係者の範囲の特定

- 土壌汚染によって影響が生じると予想される周辺住民の方々の範囲の特定。
- 近隣の町内会長、自治会長、地元議員など**地域の重要な関係者のリストアップ。**
- 事業所従業員や株主。

情報を提供する順序

- で整理した複数の関係者への情報提供の順序。
- メディア公表をする場合の情報提供の順序。

開始のタイミング

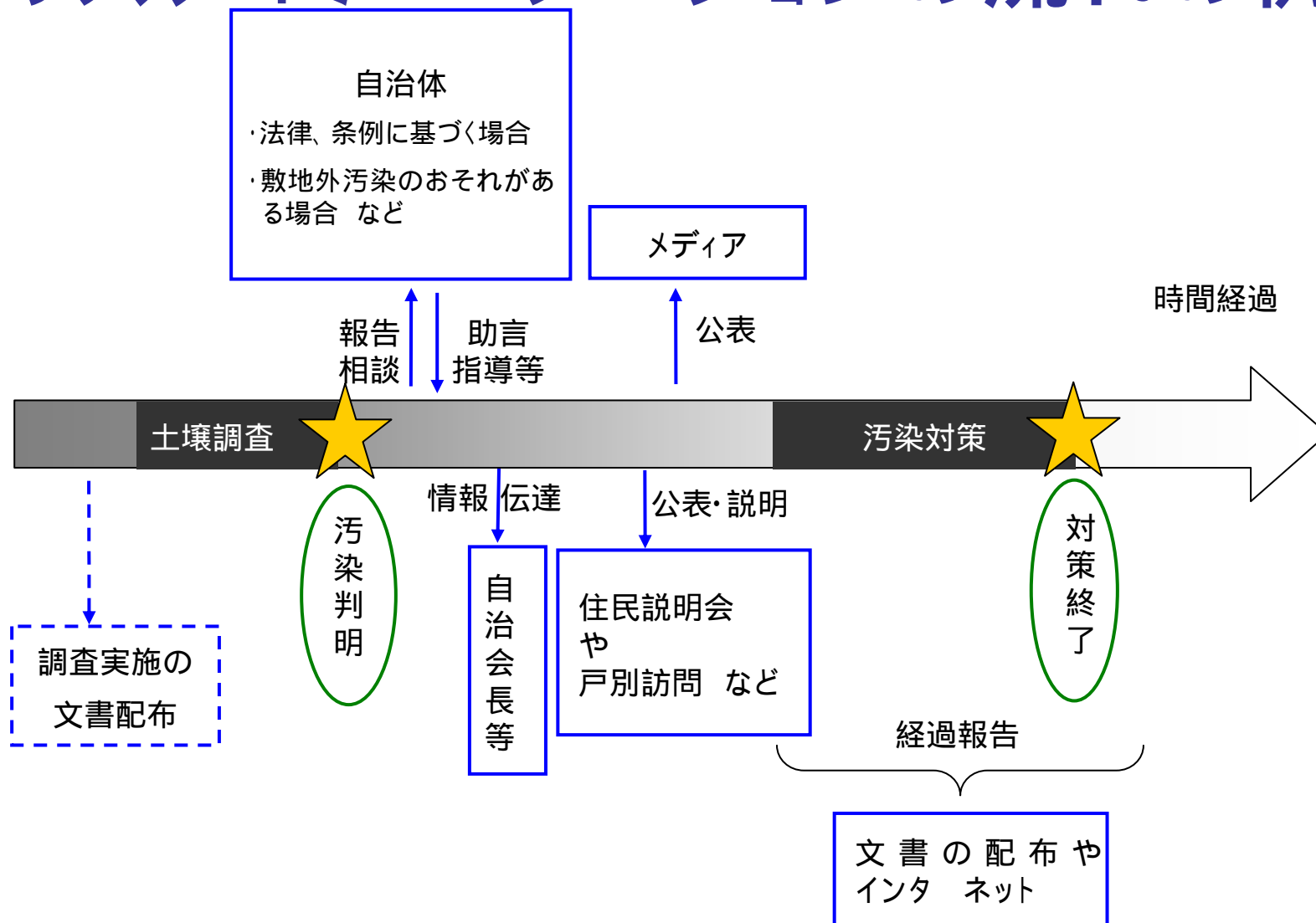
- 汚染の**発覚から情報の公表までの期間に留意する。**
期間が長い 「情報の隠ぺいでは」と疑問を持たれる。状況によっては健康影響のおそれを放置することになる。
期間が短い 汚染の状況や対策内容などが不確定な状態で公表と
なってしまう。
- 対策の実施までに時間がかかる場合は、その理由や対策を行うことについて説明するなど誠実な対応をする必要がある。

土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの実施にあたって(2)

伝えるべき内容について

- 事業所の概要や歴史
- 土壌汚染調査を実施した契機や公表までの経緯
- 土壌汚染の状況(汚染地点、汚染物質の種類と濃度などの調査結果)
- 問題となる汚染物質の使用履歴や現在の状況(用途や工程など)
- 土壌汚染が発生した原因
- 土壌汚染による健康影響について
- 敷地外への汚染の広がりの可能性、地下水汚染の可能性
- 今後の短期的・長期的な対応計画(汚染対策などのリスク管理など)
- 対応体制と窓口(問合せ先など) など

土壌汚染対策と リスクコミュニケーションの流れの例



土壌汚染に関するリスクコミュニケーションの方法について

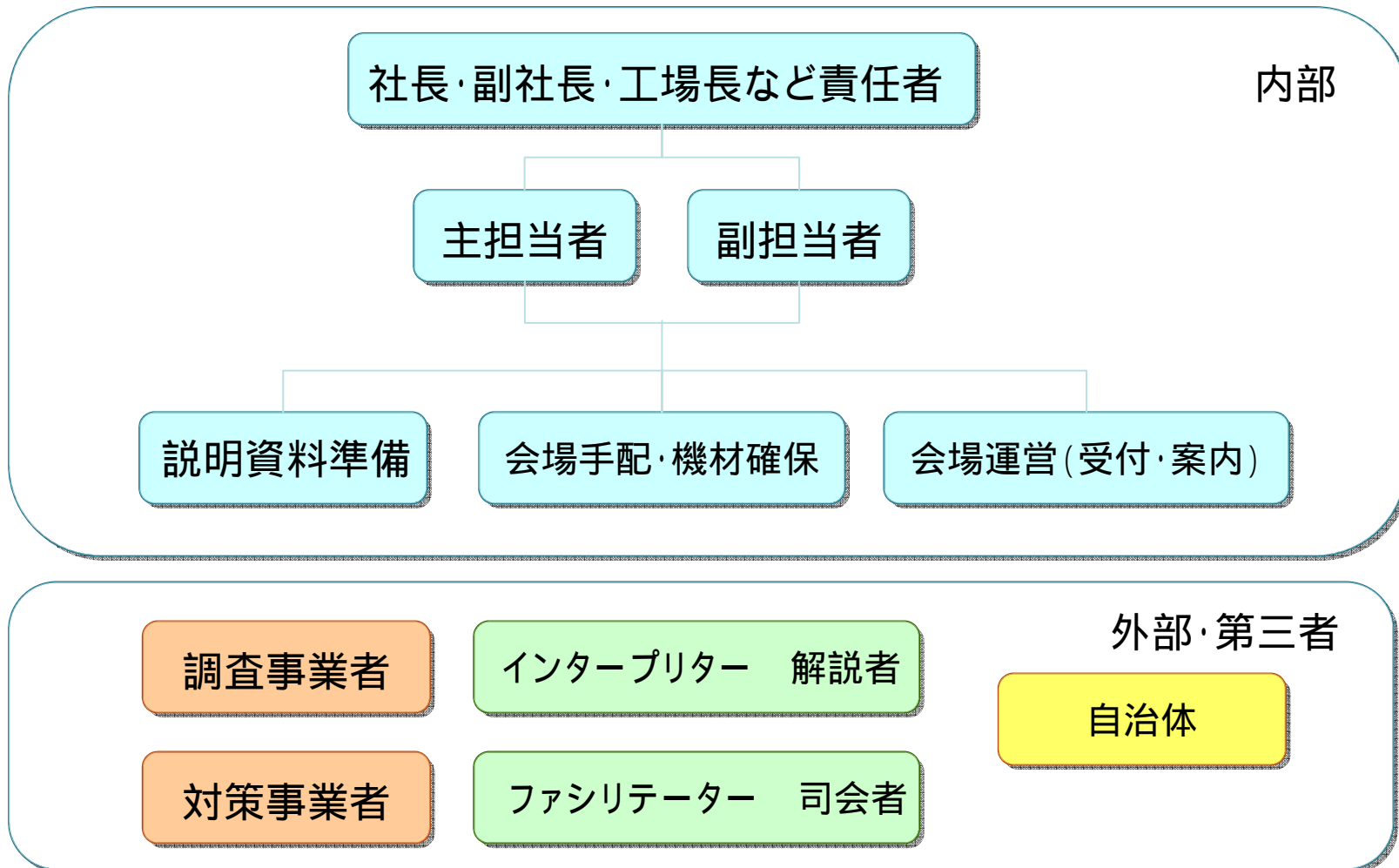
	特 徴	留意点
説明文書(チラシ)の配布・回覧	<ul style="list-style-type: none"> •伝えられる情報が少なく限定される 	<ul style="list-style-type: none"> •長文をさけ簡潔に •図表を使い視覚的に •影響の有無を明確に
住民説明会の開催	<ul style="list-style-type: none"> •双方向の話し合いや意見交換が行える 	<ul style="list-style-type: none"> •十分な準備が必要 •参加できなかった方への対応が必要となる
戸別訪問による説明	<ul style="list-style-type: none"> •全員と情報共有可能 •参考意見の聴取可能 •戸数が多いと労力大 	<ul style="list-style-type: none"> •訪問先の都合を配慮 •公平な対応が必要 •説明内容の統一化
メディアへの発表やインターネットによる公表	<ul style="list-style-type: none"> •伝えられる情報が少なく限定される •受け手は不特定多数 	<ul style="list-style-type: none"> •事実を正確に伝える •問合せ対応窓口を明示し一本化

平成21年度土壤汚染対策セミナー

～リスクコミュニケーションを円滑に進めるために～

- 1．土壤汚染とリスクコミュニケーション
- 2．土壤汚染対策と健康リスク
- 3．土壤汚染に関するリスクコミュニケーションの進め方
- 4．**住民説明会の開催について**
- 5．参考資料

住民説明会の実施体制の検討



会場の手配・プログラムの作成

会場の手配

- 公共施設（地域の公会堂や公民館の利用）
- 事業所内の会議室

プログラムの作成

- 開催日・開催時間の検討

【住民説明会当日のプログラム例】

- A スタッフの集合と準備開始
- B 会場機材の準備
- C 参加者の受付



開会・あいさつ
当日の進行の説明
内容説明
意見交換会
閉会

開催通知文書の作成・案内方法

開催通知文書の作成

【記載内容の例】

- 説明会の目的や主旨
- 開催日時(開始時刻、終了予定時刻など)
- 開催場所
- 開催場所の地図、アクセス方法、駐車場の有無等
- 説明会のプログラム概要
- 連絡窓口、担当者名、電話番号 など

開催案内の方法

【周辺住民の方々への周知方法の例】

- 各戸への開催通知の配布
- 自治会等の回覧板・掲示板の利用
- インターネットなどの利用
- メディアへの公表 など

住民説明会用 説明資料の作成

作成にあたって留意すべき点

- 専門用語の使用をさける。
- 写真やイラストを用いて分かりやすい資料を作成する。
- 説明の順序に合わせて資料の流れを作る。
- 図解やグラフの元になるデータを示す場合は、添付資料にする。

説明する資料の内容

- 土壌汚染調査を実施した契機や公表までの経緯
- 土壌汚染の状況(汚染場所、範囲、汚染物質の種類と濃度など)
- 問題となる汚染物質の使用履歴や現在の状況(用途や工程など)
- 土壌汚染が発生した原因
- 土壌汚染による健康影響について
- 敷地外への汚染の広がりの可能性、地下水汚染の可能性
- 今後の短期的・長期的な対応計画(汚染対策などのリスク管理など)
- 対策により期待される効果
- 対応体制と窓口(問合せ先など) など

想定問答集作成・リハーサル実施

想定される質問に対する回答を考えておく

- 会社の方針を確認することができる。
- 紋切り型の回答になることが避けられる。
- 専門用語や分かりにくい言葉で回答してしまうことが避けられる。

以上の準備が整ったらリハーサルをしておく必要がある

- 土壌汚染の知識がない方や設備担当や技術系ではない部署の方に参加・協力を仰ぐこと。
- 分かりにくい言葉、よく説明できない箇所に気づくことができる。
- 参加者から話し方、態度、説明内容等の助言・指摘を受けて改善ができる。

住民説明会の当日

基本的な姿勢

- 参加者が貴重な時間を割いていることを意識する。
- 相手の立場に立ってものごとを考える。
- 意見交換の時間を十分に取るようにする。

説明について

- 口頭説明だけでなく、図、グラフ、写真など視覚的な資料を加える。
- 専門用語の使用を避けて分かりやすく説明する。
- 簡潔に説明し、要点を分かりやすく伝える。

質問への回答について

- 感情的な意見や、関係の無い質問を受けても丁寧に対応する。
- その場で答えられない質問には無理して答えずに、後日調べて回答することを伝える。
- 仮定の質問に対して仮定の条件で答えない。

平成21年度土壤汚染対策セミナー

～リスクコミュニケーションを円滑に進めるために～

1. 土壤汚染とリスクコミュニケーション
2. 土壤汚染対策と健康リスク
3. 土壤汚染に関するリスクコミュニケーションの進め方
4. 住民説明会の開催について
5. 参考資料

参考資料

土壌汚染に関するリスクコミュニケーションガイド ライン ~ 事業者が行うリスクコミュニケーションの ために ~

- ✓ 製作 財団法人 日本環境協会土壌環境課
- ✓ 発行 環境省水・大気環境局土壌環境課 平成20年6月

改訂版 土壌汚染対策法と企業の対応 Q&A107 事業者のための紛争対応・リスクコミュニケーション ガイド

- ✓ 編著 土壌汚染対策研究会
- ✓ 発行所 社団法人 産業環境管理協会 平成18年11月20日発行

化学物質のリスクコミュニケーション手法ガイド

- ✓ (社)日本化学会リスクコミュニケーション手法検討会浦野紘平
- ✓ 発行 (株)ぎょうせい 平成15年5月30日再版発行